

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年 8月21日(火) 午後6時から7時30分まで 【2回目】平成30年10月28日(日) 午後2時から3時20分まで
場 所	【1回目】大久保中学校 【2回目】大久保交流センター
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】 9人 【2回目】 1人 計10人 (2) 事務局 【1回目】 教育部長 【2回目】 教育部長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 大久保小 367人(12) 塙山小 224人(8) 諏訪小 201人(6) 大久保中 361人(9) (20年後) 大久保小 277人(12) 塙山小 169人(6) 諏訪小 151人(6) 大久保中 272人(9) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問) 児童生徒数の推計や現状で地域差はあるか。</p> <p>(教育部長) 現在、児童数が多いのは楡形小学校。少ないのは、中里小・中学校、東小沢小、山部小など。 子ども議会があり、中学生が市議会議員になり質問をいただいた。部活動についての質問の中で、友人が柔道部に入りたかったが、中学校に柔道部がなく違う部活動に入ったという話があった。中学校では、野球部などが単独では活動ができない状況も出てきている。 大久保辺りの減少率は高くはないが、市内全体で減っていく推計である。 山側団地などの人口が増えて必要に迫られて学校ができてきた。そこに子どもたちが帰ってきていない。</p> <p>(質問) 目指す学校規模を実現しようとするれば、最終的には統廃合や学区の再編ということになると思うが、具体的な案はあるか。</p> <p>(教育部長) 再編に当たっては数合わせをするつもりはない。減少率のデータ等を見るとそのような話になりがちだが、机上の話で学校の統合はできない。極端に遠くならないように、地域性の違いも考えなくてはならない。 中里小・中学校は、地理的に離れていて近隣校との統合などを考えることができないので扱いを別にしてはいるが、それ以外の学校については、1校も決めていない。</p>	

(質問)

学校の再編は市が独自に取り組んでいるものか。全国的な傾向だと思うが、国から再編しろと指示があって取り組んでいるのか。

(教育部長)

複式学級については検討が必要だというような、望ましい規模の目安は国や県が示しているが、学校の設置者は市町村なので、それぞれの市町村が実情に合わせて取り組んでいる。

一定の規模の集団の中でいろいろな友達と接しながら学校生活を送るほうが、教育効果が高いと考えるし、子どもの人数が多ければ先生の数も増える。見守る先生も多い方がいい。

(事務局)

学校の再編は、国から指示されていることではない。子どもたちの教育を考えてのことである。

以前の勤務校では全校生徒が39人、地域に密着した良い学校だったが、1学年10人以下、男女に分けると3人ずつになり遊びもままならない。

1学年1学級の学校でも素晴らしい学校はたくさんあるが、トラブルがあってもクラス替えができないなどの課題もある。子どもの立場から見たときには、2学級あったほうが望ましいと思う。

あくまで推計だが、20年後に児童生徒数が半数近くになってしまうことを考えると、今のままでいいとはいえない状況だ。

懇談会の各会場では、学級の人数を適正にしてほしいというご意見が多かった。経験的には、学級の人数は25～30人くらいがいいと思う。一人ひとりに余裕をもって関われる。

しかし、学級の定員には基準があり教員の配置も関わる。国の基準では小学1年35人、2年生からは40人であるが、茨城県ではもっと手厚くするために小学2年生まで35人。小学3年以上では学級の人数が36人以上であれば非常勤講師が配置され1学級を2人で見ている。また、特例で、36人以上の学級が1学年に3学級ある場合は4学級にできる。

少人数でできる制度はあるが、教員の志願者が減っており必要数を確保できていない。

(質問)

統合が進んで学校が遠くなってしまったら、学童を手厚くしてほしい。

子どもが学校に通っている保護者の方の話を聞くと、学校の先生のメンタル面が心配だ。非常勤講師をつけられる体制があっても、人数が足りていないことへの配慮はどのようにしているのか。

(教育部長)

学校を統合すれば、児童クラブの需要は増える。年度初めに待機児童はないが、学期途中になると入れない子も出てくる。学校が統合された場合は、それを機に十分な数を確保したいと考えているし、保育時間の延長も考えたい。学校は自宅から近い所だが、住まいと勤務先が遠いほど迎えに行くのは大変。保育園は親の都合で選べるが児童クラブは選べない。今後、手厚くしていくべきだと考えている。

(事務局)

教員の支援については学務課でも苦慮しているところ。学級の数で教員の定数が決まる。その数は配置されているが、学級運営で支援が必要になった、体調を崩してしまった場合など対応しきれていない。

ここ5～10年で学校もだいぶ変わってきた。以前は、副担任のような人がつくこともなかったし、教員同士で応援し合うことも少なかった。「学級王国」ということばがあったが、自分の学級は自分で責任を持つということ。責任感があるのは良いことだが弊害もある。子どもとの相性もある。現在は、学級で問題が起こったときに他の教員（校長、教頭、教務主任などの担任を持たない教員）が手伝うようになってきた。

教員が足りない現状は全国的に問題となっている。県に働きかけていきたい。

(意見)

塙山小はギリギリ2学級。少年団も人数が減っていて、合同チームでないと成り立たない。試合のたびに違うチームと組むことになる。チームワークなども育ちにくく寂しいと感じる。

(意見)

人数が少ないなりにICTなどを使ってやっていけるのではないか。

高校の教員をしており、中学校の様子などを聞くと、生徒が少ないから子どもと関われると思いきや、(人数の多い学校と)仕事は変わらないので生徒と向き合う余裕がない。子どもが少なくても学校の行事は変わらないし、地域との関りも変わらない。子どもが少なければ教員も少ないので、余計に大変らしい。

学校間に人数の差があるのはかわいそう。高校受験を考えると、家庭の状況で塾に行けない、学校の勉強だけで受験しなければいけない子もいる。そのような場合、少ない人数の中では自分の学力を計れない。3クラスくらいないと指標がない。規模を確保できないのであれば、市独自の統一テストなどで見ていかないと難しいのではないか。経済的な理由で塾に行けないのは子どものせいではない。

先生の数が少ないと、配慮を要する子に先生の手が取られてしまうし、担任の先生と馬が合わない子の居場所も作れない。学校では多様な学びに対応していかなければならない。

中学での部活動は子どもにとって重要で、高校につながることでもある。通学の課題もあるが、人数はいたほうがよい。自分の子どもがよければいいということではない。住んでいる所は子どものせいではない。

ICTも英語もとなったら、小学校の先生のなり手がいないのも分かる。

国道を跨いでの通学は心配だ。スクールバスなどの対応が必要かもしれない。

教員配置について年齢のバランスを考えてほしい。多様なニーズに応えなければならない時代なので、いろいろな価値観を持った教員がいて、何でもできる中間層がいて、若手とベテランをつなぎながらやっていかないと、小学校から中学校、高校へと進む中で、(子どもたちの様子が)どんどん難しくなっていく。

教員志望の学生やOBなどの協力を得て、高校入試の対策など日立市独自のものを打ち出してもらえれば、人口減少の対策になり、日立に来てくれる先生も増えるのではないか。

(意見)

10年後に大久保中が9学級になると聞いてビックリした。その頃は自分の子どもたちが中学生。部活動の選択の幅が狭まってしまうのではないかと心配。

クラス替えができたほうがよいし、保護者の関係も変わるほうがよい。合わないお母

さんと6年間、我慢して付き合うのは厳しい。

子育てに対する経済的な支援を厚くしてほしい。3人目が欲しくても難しい。

(事務局)

学校では、4月に行う県の学力診断テストを重視している。中学3年生は11月にも行う。文科省の全国学テは、学年も教科も限られている。

(教育部長)

市独自の統一テストは検討の余地はある。放課後の学習支援も行っているが、やり方がいろいろで散らばってしまっているので、考え直さなくてはならないと思っている。

日立市の子育て支援は、他市と比べて見劣りはしていないと思う。直接的な経済的支援は児童手当などになると思うが、市が独自で上乗せできるかどうかは検討が必要。

(事務局)

児童クラブについては、来年度から午後7時まで保育時間を延長する検討をしている。また、対象も6年生までとする検討をしている。

(教育部長)

皆さんにお伺いしたいが、市の情報はどのように入手しているか。市報は見ているか。

(意見)

アパートなので市報は届かない。職場から持ち帰っている。

(教育部長)

市報が届いても見ないと言われたりしていて、情報を届けるにはどうしたらいいかが最大の課題。

(事務局)

情報は自分で取りに行かないと手に入らない。最近の市報は読めるものになってきた。コンビニやスーパーにも置いてあるので、ぜひ手に取ってみてほしい。

(意見)

駐車場付きの公園を作してほしい。歩いて行ける所に公園がないので車で行くことになってしまう。

(事務局)

担当課にお伝えする。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問)

再編計画の中では、小学校同士も統合されるのか。

(事務局)

小学校、中学校ともに再編の対象である。

(教育部長)

統合が計画された対象校では、事前の交流を重ねて円滑に統合できるようにしていきたい。数の少ない学校から多い学校に行くとは限らないと思う。学校の敷地の広さや立地も含めて考えなくてはならないと思っている。できるだけ早く具体的な計画は示したいと思っているが、示した後、どんなに早くても3年くらいはかかる。

事前の対策をすることで、保護者の不安は解消できると思うが、地域の方々の漠然とした不安を解消することは難しいと思う。

(意見)

小咲台に住んでいるが、小さい子どもが周囲にいない。中学校は大久保中で、通学路に山間の道路が含まれる。子どもの数が減って、一人で通うことになったら、女の子なので不安がある。

(教育部長)

諏訪地区は地域がしっかりしていて安心だと思う。見慣れない人がいるとすぐ分かる。所によっては、防犯パトロールができなくなっていると聞く。

学校に対する不安や心配なことはあるか。

(意見)

友だちができるか、いじめなどがないか心配だ。

(事務局)

いじめの定義が変わってきた。本人がいじめられたと感じれば「いじめ」として対応する。そのため、認知件数も増えているが、子どもを守ろうとする意識の表れであり、深刻な事案は減っている。学校では、いじめや不登校はどこでも起こり得るものとして対応している。何かあったら、決して一人では対応せずに、職員間で共有して対応する。入学後に心配があれば、担任だけでなく他の先生に相談することもできる。

(教育部長)

懇談会では、児童クラブへの要望も多かった。

子育て支援であつたらいいと思うサービスはあるか。

(意見)

ブックスタートや子どもセンターに行ったりしていると、子どもがたくさんいるので、子どもが減っているという実感がなかった。

子どもとずっと一緒にいると、しんどいと感じることがある。一時預かりを利用しようと思ってもハードルが高い。同じくらいの子どもがいる友達同士で集まっても慌ただしい。

(教育部長)

ぜひ、一度、利用してみしてほしい。利用してみれば、次のハードルは下がると思う。子どもはすぐに育ってしまうので、今のうちに子育てを楽しんでほしい。

(事務局)

今日の参加は、どのようなきっかけだったか。

(意見)

封書が届いていた。大久保中を見てみたかったが、台風で変更になってしまった。今日の変更は予防接種スケジュールで知った。紙媒体が手元にあって確認できるのも便利だと思う。

(教育部長)

市の相談機関などに相談したことがあるか。

(意見)

子どもセンターの栄養相談に行きたかったが、曜日の指定があつて、都合が合わずに行けなかった。

(事務局)

1歳6か月児健診の通知が届く頃なので、健診の際に相談することもできる。保健センターには栄養士がいるので電話でも相談することができる。

(教育部長)

ご自身の中学校時代は、どのくらいの規模があつたか。

(意見)

小学校は学年3学級、中学校は学年6学級あつた。現状を聞いて、こんなに減っているのかと驚いた。

多賀中には徒歩で1時間くらいかかった。朝は途中まで送ってもらい、30分くらい歩いて登校した。部活帰りなどは疲れて坂道がきつかった。迎えに来てもらっていた。

(教育部長)

振り返ってみれば、もっと楽しんで子育てすればよかったと思う。子どもはいつの間にか育ってしまうので、いろいろ大変なこともあるが、ぜひ、楽しんでほしい。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。